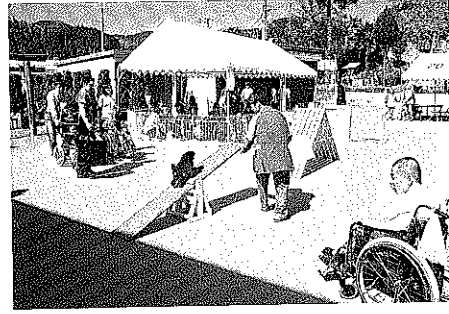


ワンワンセラピー

動物たちとふれあって



サンシャイン・グルーミングスクールの皆さんの御協力により、普段、動物と接する機会の少ないホームの皆さんと犬との楽しい交流会を開催出来ました。

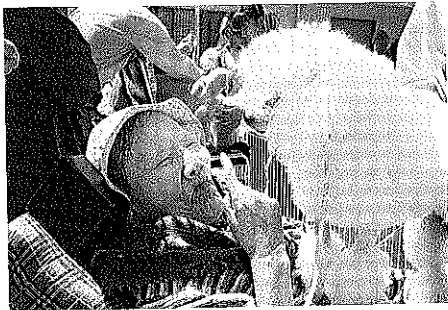
プードル犬をはじめ、色々な犬種の小型犬でスクールの生徒さんによるワンワンショーや触れ合いコーナーを設け利用者が直接犬に触れる事が出来、利用者の皆さんも満面の笑みを浮かべていらっしました。

アニマルセラピーは最近とくに、他の福祉施設などでも必要とされており、動物に触れる事で、とても嬉しい気分になったり、気が和んだり、イライラしている気持ちが治まったりします。

ほんの短い時間の訪問であっても、犬の目の表情を見たり、触れたり、ただそこに犬がいるだけで、人はバイオリズムが安定したり心が癒されています。

また、人間の触覚や嗅覚を刺激するという効果があります。

ホームでも、機会あるごとに動物との触れ合いを大切にしていきたいです。



最終回 左小指で操作する電動車椅子

理学療法士 水田 秋 敏

前回の梗概

電動車椅子を操作したいとの大石さん本人の希望もあり、それを操作する身体の部分を左小指にしたものの…。

本文

専門的な工学的知識などほとんどない私は、その方面の方達へ電話したり、使えそうな部品の情報収集のため時には迷惑ながら直接伺うこともあった。そんなやりとりの中で、標準型車椅子のシステムは大まかなながら掴めた。そして、「問題のシステム」のヒントはある文献の発見からだった。最終的には全く違うものになったが、試乗と安全対策追加が繰り返され自分で納得できるものが一応完成した。

実際の作業は一言ではいえない苦役に満ちたものとなったが、前回紹介したように実際に生活の一部となっている現在では、すべての苦勞が喜びへと飛翔するようにさえ思われる。

今回の小指のみで操作する電動車椅子の作成は、人間の可能性

について2つのことを考えさせられた。

1つめは、残存機能を見落としていないかということ、2つめは、違う分野でも飛び込んでやってみないといけないと言いつつ切れないということ。これらのことが、この文章を最後まで読んでいただいた今後のあなたにとって、少しでも役に立つことを祈りながら執筆したいと思う。

(了)